

つくば医療MaaS実証実験

つくばスマートシティ協議会では、つくば市をはじめ、茨城県、筑波大学他、民間企業など74者が参画し、先端技術を活用した市民生活の向上などに向けた検討や、実証実験を行っています。

MaaSって何？

いろいろな交通手段などを統合して、より便利な移動を実現する仕組みのことです。

令和3年度の実証実験

「高齢者や障がい者など誰もが安心・安全・快適に移動できるまち」の実現を目指し、以下の実証実験に取り組みます。

実施期間：令和4年1月17日～2月14日

実証1

- ・ MaaSアプリによる予約と、AIを用いた最適な経路選択を行うデマンドタクシーにより、移動が困難な方の通院の利便性向上や、行き先を病院に限定した乗合の促進により、AIデマンドタクシーの公共交通としての可能性を検討します。
- ・ 位置情報データから、公共交通が必要な地域の割り出しや、適切な目的地設定など、データに基づいた交通政策に反映できるかどうかを検討します。



KDDI(株)・(株)KDDI総合研究所

実証2



日本電気(株)

- ・ 顔認証技術を用いた病院受付等により、病院受診の利便性が向上するかを検討します。
- ・ 顔認証による事前受付や確実な本人確認により、病院の事務負担が軽減し、患者の病院滞在時間の短縮につながるかを検討します。

※筑波学園病院で実施

実証3

- ・ 自動運転パーソナルモビリティを用いて、整形外科に通院する患者の受診負担の軽減や、付添者、医療従事者の負担の軽減について検討します。
- ・ 自動運転パーソナルモビリティが走行する際に、病院内に設置したカメラの映像をコンピューターで解析し、安全の確認やより良いルートを選択ができるかを実証します。 ※筑波大学附属病院で実施



筑波大学・WHILL(株)・三菱電機(株)